

【学校教育目標】

真理と正義を愛し、勤労と責任を重んじ、創造力と自主的精神に充ち、地域と国際社会に貢献できる個性豊かで心身ともに健康な人材の育成を目指す。

【重点目標(中・長期的目標)】

- 「白馬にしかない」学びの創造
- ①地域と連携した全国モデルとなる学校協働運営体制を構築する。
 - ②地域資源を最大限に活用し、国際的な視野を持ち地域視点で行動するグローバル人材の育成。
 - ③基礎的な学力の定着と21世紀型学力の育成に向けた授業改善と授業力向上。
 - ④自らの生き方を主体的に意思決定し行動できる進路指導とキャリア教育の充実。

【今年度の重点目標】

- 1 生徒募集に係る取組の推進
 - 2 個に応じた生徒支援と特色ある教育活動の推進
- ①学習・生活の両面における個に応じた丁寧な支援・指導を通じた、いじめや体罰のない安心・安全な学校づくり。
- ②地域からの提案を活用した、環境と観光、国際を軸とする探究的で多様な学びの機会の提供と生徒個々のキャリアデザインの具体化支援。
- ③支援係との連携体制の一層の強化。寮生・下宿生に対する丁寧な支援・指導と地域との交流促進。
- ④地域みらい留学を通じた全国募集の促進と地元生確保に向けた、地域、地元小中学校等に対する積極的な情報発信、相互交流の強化。

◎教育活動に関するもの

評価項目		評価の観点	担当	目標・留意点(関係組織・評価方法等)	評価	達成状況と今後の課題
学習指導と教育課程	教育課程 教育内容	カリキュラムマネジメントに基づき実践する教育内容は、生徒の進路実現に効果的なものであったか。	教育課程委員会	進路状況、資格取得状況等の結果による。	B	3年生は自分の強みを生かし、希望する進路へ進むことができた。
		選択科目の選択群の構成並びにそれに属する科目の配置及び内容は適切であったか。			B	生徒の実情やつけたい力を考え、来年度以降の編成の一部を見直すことができた。
	各教科	思考力や想像力を伸ばし、他者の考えを理解する能力を育成できたか。自分の考えを適切に表現する能力を育成できたか。ことばに対する関心を高めることができたか。	国語科	7割以上の生徒が満足感を得たか。(授業アンケート)	B	授業アンケートにて7割以上の生徒が満足していると回答している。学力差が大きいので、さらに個別の対応を心がけたい。
		授業編成の工夫や添削指導などを含むさまざまな補習を通して、個々に応じた基礎学力の向上を図ることができたか。また、言語能力の育成を意識し、対話(双方向)的な活動を行ったか。	数学科	7割以上の生徒が満足感を得たか。(授業アンケート)	B	授業アンケートにて7割以上の満足感を得ることが出来た。今後、難易度の高い問題にも挑戦できる態度を養いたい。
		習熟度別授業や選択授業、また放課後の補習を通して、個々に応じた基礎学力の向上を図ることができたか。授業での言語活動を通して、英語への関心を高めることができたか。	英語科	7割以上の生徒が満足感を得たか。(授業アンケート) 必要に応じて補習を実施できたか。	B	少人数授業とTTIにより個の学力に応じた指導ができた。個別補習により検定や進学に向けた指導を行い、基礎学力の補充ができた。
		日本と世界の地理・歴史および政治経済に関する基本的事項を理解させ、地域や社会に貢献できる態度を育むための授業実践を行い、適切な振り返りを行ったか。	地歴公民科	地域の課題および地域を題材とした授業を各学年1件以上立案し、実施することができたか。授業アンケートを行い、その結果を次年度授業計画に反映させたか。	B	グリーンシーズンの白馬について(1学年)、白馬の山と人々の暮らしについて(2学年)、JR大糸線活性化プロジェクト(3学年)を実施することができた。
		「観光」にかかわる学習活動をさらに拡充させ、より魅力的で、より教育効果の高いものとするための研究をしたか。		新規に発案した企画、または、改善を加えた企画を2件以上立案し、実施することができたか。	A	特に大糸線活性化プロジェクトにおいては、昨年度よりも多くの取組を行った。また、企業や団体と協力し、取り組むことができた。
		実験・実習の目的、操作の意味を理解させ、実験結果をグラフや表にまとめ、考察させるなどの学習活動を通して、探究的な学びの土台作りができたか。	理科	科目ごと、各単元で1回以上生徒実験を行うことができたか。	B	おおよその科目で各単元1回以上の生徒実験を行うことはできた。達成できなかった科目においては演示実験などを通して理解の促進を図った。
		運動の合理的、計画的実践に主体的に取り組むことができたか。自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質、能力を高められたか。	保健体育科	7割以上の生徒が満足感を得たか。(授業アンケート)	B	自主的に行動できる生徒が見受けられるようになった。
		生徒一人ひとりの技能、技術の伸長を図ることができたか。 芸術を愛好し、深く味わおうとする心情を育むことができたか。	芸術科	7割以上の生徒が満足感を得たか。(授業アンケート)	B	生徒の希望を生かしつつ、適切な指導ができた。
		生活者として生きるための知識や技術を身につけ、主体的に人生をつくれるようにワーク・実験・実習を活用した授業展開を工夫し、生徒が主体的に取り組むことができたか。	家庭科	7割以上の生徒が満足感を得たか。(授業アンケート)	B	実習を通じて知識や技術を身につけることができた。特に調理実習での外部講師の活用、保育園実習は好評であった。今後も生徒が主体的に取り組む教材開発を行っていききたい。
		商業科目に興味を持たせ、資格取得を通じて、社会で使える知識・技術(スキル)を身につけさせることができたか。	商業科	7割以上の生徒が満足感を得たか。(授業アンケート)	B	外部講師を活用し、マーケティングへの興味・関心を高めることができた。
		情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的な知識と技能の習得と情報社会の特性を理解し、情報化の影の部分に対応し、適正な活動ができる考え方や態度を身につけることができたか。	情報科	7割以上の生徒が満足感を得たか。(授業アンケート)	B	記入式のスライドとLife is tech(自己学習ツール)を併用した学習方法は、概ね好評だった。来年度も導入していきたい。ただ、2進数・16進数・10進数の関係が不得意の生徒が多数いるので授業を改善していきたい。

	評価項目	評価の観点	担当	目標・留意点(関係組織・評価方法等)		
教務	教務	生徒・職員が安心感をもって取り組める環境整備を行うことができたか。	教務係	10件以上の改善提案を行うことができたか。	B	各日程(考査、学年登山、三者懇談)の見直し、アンケートの精選など5件程度の改善提案を行うことができた。
		生徒に落ち着いた学習環境や機会を提供し、生徒の学力向上を図ることができたか。		対話的・協働的な授業、ICTを活用した授業の取り組みを推進し、授業評価アンケートにおいて、7割以上の生徒が満足感を得られたか。	B	10月に行った授業評価アンケートでは「興味関心や学習意欲を高める工夫をし、わかりやすく充実した授業を行っている」に対し7割の生徒が肯定的な回答を行っていた。今後も生徒の活動が重視される授業づくりを推進していきたい。
生徒指導	生徒指導	基本的な生活態度が確立されたか。	生徒指導係	8割以上の生徒が達成できたか。(服装、あいさつ、マナー)	B	日常の指導、定期的な服装・あいさつ指導を通じ、規律風紀の維持に努めたが、身だしなみに関してはルーズな生徒が目立ってきた。粘りつよい対応が必要。
		健全な高校生活を送るために、豊かな人間関係の形成および問題行動の防止ができたか。		8割以上の生徒の評価が得られたか。	B	大半の生徒は落ち着いた学校生活を送れ、事案件数は昨年より少なかったが、対応の難しい事案もあった。情報モラルに関しては課題予防的指導も必要である。
		さまざまな機会を通して、交通事故の防止ができたか。		各種指導を実施できたか。(交通安全講話、自転車乗車指導等)	B	定期的な自転車通学指導を行い、交通安全教室を実施し交通安全の啓発を行った。一方で地域からの苦情も数件あり、自転車運転マナーの向上が継続的な課題である。
		さまざまな機会を通して、盗難の防止ができたか。		移動や集会のたびに声かけはできたか。	B	7月に校内現金盗難があったが、その後、貴重品管理の再度徹底を呼びかけ、係による校内巡視も行った。再犯はなく盗難抑止の効果があつた。
		生徒が安心、安全で学校生活を送ることができたか。		地域、保護者、生徒、職員等からの情報を活用できたか。	B	生徒個人に寄り添う指導を職員が心がけ、職員間の連携、保護者や地域からの情報を活用しながら指導に当たることができた。
進路指導	進路指導	生徒の志望や適性・学力などを正確に把握し、適切な情報提供を行い、進路決定までていねいに指導することができたか。	進路指導係	指導に対して7割以上の生徒が満足したか。(最終学年生徒へのアンケートによる)	A	担任、係を中心に粘り強く丁寧な指導することができた。アンケートの結果、3年生の7割以上が進路指導に「満足」と答えた。
		生徒の希望と意欲に応じて、早い段階から進路目標を持たせ、普段の授業に加え模試や補習などを効果的に組み合わせた学習計画に沿って、戦略的な進路指導を行うことができたか。入試について研究し、生徒を適切に指導できたか。		指導体制を整え、生徒が目標に向かって学習を進めることができたか。	A	多くの先生方の協力も得ながら、係が中心となって指導体制を構築し、各生徒の進路実現につなげることができた。また、1、2年生も進路意識を持った生徒が増えてきていた。
	キャリア教育	組織的で系統的な教育活動を展開する中で、生徒の人生観・勤労観を養い、目標を持って意欲的に行動することを促せたか。		就業体験、企業見学、職業人講話など、さまざまな学習の機会を与えることができたか。	A	1年次の就業体験が計画どおり実施することができた。また、デュアル実習・企業見学・職業人講話(社会人に学ぶ)など積極的に行うことができた。
	学習指導	授業や公営塾との連携によって生徒の学習状況を把握し、学力向上を目指した取り組み(模試や7時限補習など)を推進することができたか。		1, 2年生の7割以上がスタディサブリで配信された課題に取り組むように働きかけることができたか。	A	3か月に1回公営塾との連絡会を持ち、指導に活かした。模試・補習を活用した生徒も増えた。
		個別指導や三者面談時の補習を通して、基礎学力の向上が図れたか。			B	スタディサブリに取り組んだ生徒は、年間平均で1年生は73%、2年生は45%で、2年生の取り組みを持続させることが難しいかった。課題としての取り組みせ方をもっと工夫する必要がある。
生徒会	生徒会活動	生徒が達成感を経験し、自信をつけるため、さまざまな場面で生徒に活躍の場を提供できたか。	生徒会係	7割以上の生徒が達成感を実感できたか。(アンケート実施)	B	生徒アンケートを実施し、委員会活動を活発に行えるように働きかけを行った。各活動を通じて自信をつけ、成長する姿が見られた。
		生徒会の将来を考え、組織や活動方法の見直しを行い、必要に応じて改善できたか。		活動実績の点検。	B	必要に応じて活動を見直し、生徒会の組織のあり方について、生徒が主体的に議論する場面が見られた。
	文化祭	早い時点から、生徒主体で計画の立案を行い、充実した内容の文化祭を実施できたか。		7割以上の生徒が満足できたか。(アンケート実施)	A	生徒主体で計画・準備・運営にあたることができた。アンケートでは、9割以上の生徒が充実していた、まあまあ充実していたと回答。
	生徒の自主性	さまざまな機会を通して、生徒会活動に参加させることができたか。		7割以上の生徒が達成感を実感できたか。(アンケート実施)	B	個人差はあるが、多くの生徒が生徒会活動に参加することができた。生徒自らアンケートを実施し、学校生活の規定について職員とともに考えることができた。
		ボランティアや国際交流などの公共的な面にも目を向けさせることができたか。		活動実績の点検。	B	コロナ禍により中止になっていた行事が再開し、ボランティアなど、様々な活動に目を向け行動することができた。

評価項目		評価の観点	担当	目標・留意点(関係組織・評価方法等)		
保健・環境	健康	健康についての意識付けができたか。 RAMPSを活用し、生徒の状況を把握できたか。	保健環境係	アンケートを実施し、その評価による。	B	RAMPSを全校で実施し、生徒の状況を把握する一端とすることができた。今後も継続して定期的全校で実施していきたい。
	環境	学校内外の安全点検を実施し、その対策と安全確保ができたか。			B	安全点検を実施し、危険な箇所はなかったが、今年度もハチの巣が複数見つかった。今後も校舎内外ともに注意して点検していきたい。
		校舎内外の美化に努め、学びの場としての環境づくりができたか。			B	アンケートの結果、おおむねよく取り組めたという回答が9割以上であった。ゴミの分別が不十分であるなどの課題もあり、今後も継続して声掛けを行っていくたい。
生徒相談	特別支援教育	発達に障がいを抱える生徒や不登校生徒、不安や悩みを抱える生徒へのカウンセリングや支援・相談が適切に行えたか。また、そのような生徒を支援するために教員の指導力向上を図ることができたか。	特別支援教育委員会	生徒や保護者の意向を踏まえ、スクールカウンセラー事業重点派遣校の96時間を効果的に活用し、支援できたか。個々の生徒に合った支援体制の実施と必要な見直しができたか。教職員対象の研修会を年1回以上行ったか。	B	SC派遣時間を追加していただき、生徒や保護者の意向に沿って107時間のカウンセリングを実施した。各種外部機関のご協力のもと、就労に向けての支援を行えた。職員研修は1回行った。
1学年	学習面	基本的な生活習慣を身につけさせるとともに、勉強の仕方を習得させ、学習意欲を向上させることができたか。	1学年	アンケートを実施し、その評価による。	B	アンケートでは、7割以上の生徒が、授業により興味関心が高まったと答えている。成績上位の生徒が増えてきた。
	進路指導	就労体験や進路ガイダンスなど進路に関するプログラムの実施により、進路選択の幅を広げさせることができたか。		アンケートを実施し、その評価による。	A	生徒の希望をもとに新たな企業での就労体験を計画し進路ガイダンスの形も工夫することができた。進路について考えるきっかけを作ることができた。
	総合学習 北アルプス学	総合的な探究の時間・北アルプス学において、地域の環境や歴史、産業について学び、自分なりの課題意識を持つことができたか。		アンケートを実施し、その評価による。	A	学年全体でフィールドワークを行い、地域と連携した教育活動ができたという実感を生徒にもたせることができた。
2学年	学習面	朝学習や補習等を積極的に活用し、個々に必要な資格を取得することができたか。	2学年	アンケートを実施し、その評価による。	B	ニュースを視聴することを通して時事的な話題に対する意識が高まった。
	進路指導	系統的なキャリア教育のプログラムを生かして様々な体験をすることにより、個々の具体的な進路目標を確立することができたか。		アンケートを実施し、その評価による。	B	進路学習を通して生徒の進路目標はある程度定まった。今後も学習を通して進路目標達成に向けた準備内容が具体化するように取り組むたい。
	総合学習 白馬学	総合学習の時間において探究学習の推進が出来たか。また、研修旅行を通して地域の特色や観光業への理解を深めることができたか。		白馬フォーラムでの生徒発表、実りある研修旅行となったか、旅行後の生徒アンケートを実施し、その評価による。	A	9割以上の生徒が修学旅行に満足していた。実施後に行った発表会でもそれぞれの体験が充実したものであることがうかがえた。
3学年	学習面	朝学習や補習等を積極的に活用し、基礎学力の補充、入試に対応できる力をつけることができたか。	3学年	アンケートを実施し、その評価による。	B	進学、就職それぞれの進路によって取り組む内容は異なったが、自らの進路に合わせた内容で学習を行うことができた。
	進路指導	第一志望を明確化し、教員との面談を重ね、生徒本人が納得できる進路の実現をサポートできたか。		進路状況による。	B	複数教員との面談を通して、第一志望の明確化をはかることができた。また、第一志望である進路を実現できる生徒がほとんどであった。
	総合学習 白馬学	総合的な探究の時間において、進路や自身のキャリアプランを考え、進路実現に向けて資格取得など必要な学習の成果を得ることができたか。		資格取得状況や進路状況による。	B	資格取得に積極的に挑戦する生徒もいたが、英検、漢検の取得率はあまり高くなかった。

◎学校運営に関するもの

評価項目		評価の観点	担当	目標・留意点(関係組織・評価方法等)		
連携	地域・保護者との連携	レポートチャンネルやHPを通して、学校の活動の様子や情報を地域に向けて積極的かつ効果的に発信し、その結果保護者や地域の方の学校への理解が深まったか。	教務係	レポートチャンネルを2か月に1回以上発行し、7割以上の保護者が本校の情報発信に対して満足感を得られたか。(アンケート結果)	B	2か月に1回レポートチャンネルを発行することで、学校の様子を地域の方々に伝えることができた。次年度も白馬高校の「今」を伝えられるよう努めたい。
		白馬・小谷両村をはじめとする周辺の小中学校、行政・企業や地域との連携を深めることができたか。	教務係	教員による中学校訪問、中高連携・小高連携事業を年間5回以上実施できたか。	B	近隣中学校に対しての学校説明の他に、白馬・小谷中学校との職員交流などを5回以上実施することができた。また、地域と連携したボランティアやイベントに参加することができた。
		P T A行事などを通して、保護者の方との意見交換を充分に行うことができたか。	教務係(P T A担当)	7割以上の保護者が満足感を得られたか。(アンケート結果)	B	国際観光科のガイドツアー実習では、前年以上に地域の保護者などにも参加いただき、白馬高校の取組について知っていただく良い機会となった。またガイドツアー実習に関するアンケートでは、7割以上の満足感を得ることができた。
		対面およびオンラインによる異文化交流や海外留学等を通して、生徒の国際感覚および異文化理解力を涵養できたか。	国際交流委員会	7割以上の生徒および参加者が満足感を得られたか。(アンケート実施)	B	韓国の生徒との対面での交流を実施し、異文化間のコミュニケーションを体験する機会となった。また、昨年度より再開した海外語学研修を今年度も実施に向け計画を進めており、3月にイギリスにて実施予定である。
		学校行事にて、保護者・地域の方との交流を図ることができたか。	教務係(P T A担当)	各行事の参加状況が前年度を上回ったか。	B	昨年に引き続き文化祭での駐車場係や、強歩大会での豚汁のふるまいなど前年度に比べて多くの保護者に参加いただけた。
管理運営	安全・安心な学校づくり	生徒がいじめや体罰を受けることなく、安全で安心な学校生活を送ることができたか。	コンプライアンス委員会	・いじめ防止のための指針に基づき、教職員が研修を深め、さまざまな機会を通して生徒への啓発指導を行い、いじめ事案の発生を予防することができたか。 ・非違行為に係る職員研修を通じて、体罰事案の発生を予防することができたか。 ・アンケート調査等を通じて、生徒の現況を適切に把握することができたか。 ・いじめ・体罰事案が生じた場合に適切な対応をとることができたか。	B	・8月に職員研修を行い、非違行為防止について再認識できた。 ・学校生活アンケートを生徒に実施し、いじめ等の早期発見・未然防止に努めた。
	校内研修	校内研修を定期的で開催し、職員全体の意思疎通と共通認識を醸成するように努めたか。	教務係	生徒指導(人権教育)はもとより、法令・社会規範・倫理を遵守するよう2回以上の研修を実施することができたか。	B	8月にコンプライアンス研修、10月に特別支援に関する研修を行い、職員全体で生徒の指導に対する共通の認識をもつことができた。
		公開授業をお互いの授業を研究する機会と捉えて、積極的に研修できたか。	教務係	授業力向上のために職員間で互いの授業を自由に見学できる期間を設け、各職員年間3回以上の授業見学ができたか。	B	年間3回の授業見学期間を設定した。職員によって回数にばらつきはあるが平均2回程度の授業見学は行えた。